

## 馬嶋家資料について

馬嶋家資料570点と、同家に所蔵されていた書籍類2,350冊は、平成14年の秋、高遠町図書館に寄贈され、約1ヶ月の整理期間を経て、目録が作成されたものである。

馬嶋家は、眼科医を家業として、松本藩水野家に勤仕していたが、水野家の改易に伴い、享保12年(1727)高遠藩内藤家に召し抱えられ、以後明治4年の廃藩まで、眼科の藩医として勤仕しながら、領民の治療にも当たっており、昭和の時代まで、眼科のみならず総ての病気に対応できる家庭医として、町民の信頼を集めた医家であった。

馬嶋家の資料は、馬嶋家に関する資料と、近い親戚関係にあった小野寺家に関する資料とに大別される。

馬嶋家関係資料には、藩医としての治療の記録などは意外に少なく、私的な資料や、趣味などにわたる資料が多かった。

小野寺家関係の資料は、同家が高遠藩の年寄・御用人・大目付・郡代などの要職を歴任した家であるため、藩の中樞の動向を知る手掛かりとなる重要な資料が多く見出された。

同家の資料は、数年以前から高遠町図書館にその一部が所蔵されていたが、今回その残りの大部分が馬嶋家を通して寄贈されたことは、研究者にとって誠にありがたい事であった。したがって小野寺家資料は、以前から所蔵の80点と、今回寄贈の328点の両資料を併せてご覧になる事をお勧めする。

医書・漢籍を始めとする多数の書籍は、馬嶋家代々の好学の精神と、趣味の広さを窺わせ、特に900冊余に及ぶ写本の数には驚かされる。

中でも『附合詠草』と名付けられた文化年間の連歌集(17冊)、さらには多くの謡曲本など、この地方の文化的水準の高さを窺わせる書籍も多かった

平成15年9月  
高遠町図書館